

# Y I A 会員だより 2023年5月号

発行；吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第221号 ホームページ URL <https://yia2020.net/>



## 【5月以降の活動予定他】

◎2023年度総会：5月14日（日）13:00～14:00

場所：吉野川市文化研修センター

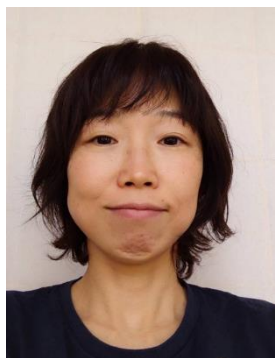
◎外国人向け防災講座：5月28日（日）14:00～

主催：鴨島ライオンズクラブ

## ◆日本語教室にかかわり始めて感じたこと

川村 雅子

私は今年の3月から日本語教室に参加させていただいています。以前から英語や中国語に関心があり、こうした外国語が使えるようになったら、どれほど世界が広がるだろうかと考えていました。とはいえ、周囲に他国の知り合いがいるわけでもなく、勉強はもっぱら独学でリーディングばかり……。だんだん行き詰まりを感じ始め、やはり実際に他国の方と交流してみたいという欲求が募ってきました。



インターネットでこちらの日本語教室の存在を知ったのはちょうどそんなときです。はじめて教室を見学させていただいたとき、中国とインドネシアから来られた生徒さんたち

がいらっしやいました。みなさん在日本年数も違えば、日本語の習熟度も、習いたい内容もさまざままで、各人

に応じた日本語を指導するのは大変なことだと感じました。でも、こうした生徒さんたちに日本語を教えるといけるとしたら、それはなんとやりがいがあることでしょうか。日本という異国の地で生活する生徒さんの不安を、言葉の壁を低くすることで少しでも解消して、さらには日本語が使えるというアドバンテージを持って各人の今後に活かせてもらえるなら、この教室でお手



伝いしていくことはとても有意義なことだと感じました。

まったく日本語指導の素地がない私ですが、先輩先生方に相談したり、どんなふうに指導されているかを見たりして、見よう見まねでかかわりはじめています。はじめは日本語で会話を続けるだけでも集中力が必要で、想像以上に大変でしたが、最近はどういうふうに日本語を教えるべきかを考え始めました。生徒さんそれぞれの目標に応じて、わかりやすく、段階的に指導するにはどうすればいいかを考えることが、今の私の楽しみのひとつとなっています。

## ◆愛媛大学の先生方と日本語教室について懇談

萩森 健治

3月24日(金)午後、愛媛大学の高橋志野さん、田代桜子さん、東京大学大学院の向井留実子さん、愛媛県国際交流協会の深田絵里さんの4名がYIAを訪問されました。YIAは瀬尾さん、三原さん、井口さん、萩森が出席し、日本語教室について懇談しました。

懇談の趣旨は、愛媛大学で取り組んでいる「愛媛県における日本語教育人材育成のための実践コミュニティの構築」の研究の一環として、吉野川市の地域日本



語教育の状況や課題等についてヒアリング調査を行い、教育実践のあり方への参考とするとのこと。

懇談の概要は以下の通りです。

#### (1)吉野川市国際交流協会の活動概要紹介（萩森）

パワーポイントで①徳島県と吉野川市の人口と外国人の人口 ②YIA の活動概要 ③日本語教室の概要 ④外国人と市民との交流活動 ⑤活動継続上の課題などを紹介しました。

#### (2)愛媛県内の日本語教室の状況紹介（高橋、深田）

県内の外国人は、松山、今治地域で多く、そのほかに西予、南予、島嶼部に散在。西予ではミカン農家、島嶼部では漁業で技能実習生が働いているが、交通手段が十分ではないことや雇用企業の理解度が低いことなどから、日本語教室へのアクセスが厳しい状況とのこと。

教室での対面授業、Zoom によるオンライン授業など試行錯誤。また、ボランティア講師の不足や高齢化なども課題となっている。

#### (3)質疑応答

Q1：国際交流協会立ち上げ時期から現在にいたるまでの活動や参加者の変遷について

A1：1992年の鴨島町国際交流協会の設立から2022年に設立30周年を迎えるまでの経緯を写真パネルなどで説明。「日本語教室の歩み」(YIA)、「日本語教室の窓から世界が見える」(村上瑛一)の著書も紹介

Q2：新規受講生の獲得方法、受講生を雇用する企業への働きかけ等

A2：会員日より、機関誌、ホームページなどで勧誘。雇用する企業は、日本語教室に協力的な企業とあまり協力的でない企業とがある。企業との連携を密にするよう心掛けている

Q3：行政機関（吉野川市・徳島県）との関係や連携

A3：協会の事務局は市教育委員会生涯学習課。市からの助成金、日本語教室の運営やイベント開催（阿波踊りなど）で協力支援や情報交換を行っている。

・外国人児童・生徒への日本語指導の面では、徳島県教育委員会を窓口として交流がある。在住外国人への対応では、県地方創生文化部を通じて日本語教室に対して助成金が支給され、年に数回情報交換の場が設けられている。

Q4：徳島県国際交流協会（TOPIA）や他の市町の日本語ボランティア団体等との関係や連携

A4：TOPIAとは、野水さん、木村さん、長田さんを窓

口として、多文化共生、日本語教室、日本語支援ボランティア養成講座、国際理解講座等の活動に



際して支援を受け、定常的に情報交換している。

他の市町村国際交流協会とは、徳島県主催の「徳島県・市町村国際交流協会等連絡協議会」などで情報交換し、阿波市国際交流協会、阿南市国際交流協会、美波多文化共生ネットワークなどとも交流。

Q5：日本語教室の理念、活動の方針や内容（もし30年の間に変化があったとすればその理由）

A5：とくに明確な方針を決めていないが、「来るものは拒まず、去るものは追わず」といったゆるい方針で参加する人たちが楽しめる雰囲気を大切に運営している。

Q6：日本語教室運営上の課題

A6：課題としては、市の少子高齢化と同様、協会会員の高齢化と会員数の減少が続いていること。ボランティア講師の後継者と若手講師の確保が課題。予算面は、県と市からの助成金と会員からの会費、イベントの参加費で運営しているが、予算的には厳しい。

#### (4)全体の感想

日本語教育に関して経験豊富な専門家を迎え、貴重な対談を行うことができました。また、四国内の他県の日本語教育に関する情報も知ることができ、有意義な懇談会でした。

### 吉野川市国際交流協会 2023 年度総会の案内

萩森 健治

2023 年度総会を下記のように開催します。

🚩 日時：5月14日（日）（13:00～14:00）

🚩 場所：吉野川市文化研修センター

🚩 議事：

① 2022 年度事業報告及び決算報告、監査報告

② 役員改選（案）

③ 2023 年度事業計画（案）及び予算（案）

事前に総会資料を送付いたしますので、議案の内容についてご検討くださるようお願いいたします。

また、総会への出欠のお返事も葉書またはメールで返信してくださるようお願いいたします。